

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》吉田晋

【概 要】

大脳、間脳、脳幹、小脳などの構造や機能および脳血管支配などについて復習し、脳血管疾患やパーキンソン病、脊髄小脳変性症などの病態や障がい像を理解する。またこうした疾患の画像所見や機能障害、能力低下の評価方法および標準的なリハビリテーション介入について学び、その病期や重症度に合わせた介入方法について理解する。

【学習目標】

脳血管疾患や神経難病に対する理学療法の理論的背景を知り、様々な病態へ適応する能力を身につけるために、各種中枢神経疾患の概要や基本的な評価、治療について理解する。

1. 中枢神経系の機能構造および損傷による障害について説明できる。
2. 各種疾患、病態に応じた適切な評価方法を選択できる。
3. 各種疾患の病期に応じた標準的リハビリテーションの概要を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	中枢神経の機能と構造	中枢神経系の機能、構造についての概略について学ぶ。	吉田晋
2	大脳皮質	大脳皮質における運動発現、運動制御のメカニズムについて学ぶ。	吉田晋
3	皮質下機能	間脳、脳幹、小脳などの構造や機能および運動との関連について学ぶ。	吉田晋
4	中枢神経の損傷と機能障害	中枢神経疾患の病態や機能障害、能力低下の特徴について学ぶ。	吉田晋
5	脳血管疾患の病態と臨床像	脳血管疾患の原因とその臨床症状について学ぶ。	吉田晋
6	高次脳機能障害	脳血管疾患によって生じる、失行や失認の症状と責任病巣および運動や行動への影響について学ぶ。	吉田晋
7	画像所見	CTやMRI画像の診方とそこから予想される機能障害との関連について学ぶ。	吉田晋
8	機能障害の評価	運動麻痺や基本動作などの機能評価尺度について学ぶ。	吉田晋
9	活動制限の評価と予後予測 (課題提出)	症例情報をもとに、いくつかの予後予測方法を用いて退院時の能力を推定し、レポート提出する。	吉田晋
10	脳卒中患者の動作分析	脳卒中に特有な基本動作パターンとその原因となる機能障害について理解し、臨床的な動作分析方法を身につける。	吉田晋
11	脳卒中患者の歩行分析 (課題提出)	脳卒中中の歩行動画を視聴し、異常歩行パターンおよびその原因となる機能障害についてレポートを提出する。	吉田晋
12	脳卒中中のリハビリテーション	脳卒中中の各病期に応じた標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋
13	頭部外傷のリハビリテーション	頭部外傷に特徴的な症状および標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋
14	パーキンソン病のリハビリテーション	パーキンソン病の各病期に応じた標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋
15	その他の神経難病に対するリハビリテーション	脊髄小脳変性症や多発性硬化症などの各病期に応じた標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋

【評価方法】

定期試験 100%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

【備考】

教科書：吉尾雅春 他 編 「標準理学療法学 神経理学療法学」 医学書院 2013年

参考書：丹治順 著 「脳と運動－アクションを実行させる脳」 共立出版 2009年
千野直一 他 編 「脳卒中の機能評価－SIASとFIM」 金原出版 2012年
道免和久 編 「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」 医学書院 2013年
安藤一也 他 編 「リハビリテーションのための 神経内科学」 医歯薬出版 2003年
里宇明元 監修 「神経科学の最前線とリハビリテーション-脳の可塑性と運動」 医歯薬出版 2015年
小松哲夫 監修 「神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ」 メジカルビュー社 2019年

【学習の準備】

シラバスを確認し、授業内容に関連する内容について教科書等を用いて重要事項を整理し、ノートを作成するなど予習して授業に臨むこと。(120分)

授業後は配布資料、教科書や引用文献をもとに知識をさらに深め、わからないところは質問するなど復習をしっかりとすること。(120分)

試験前には集中的に授業内容の整理、確認を行い、知識の定着を図ること。(10時間)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

吉田晋（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での臨床経験にもとづき講義する